

タウンミーティング「小学校のあり方について」

日 時 令和3年3月28日(日) 13時30分～15時20分
場 所 北アルプス文化センター
参加者 119人
出 席 上市町長 中川 行孝
上市町教育委員会教育長 藤縄 太郎 他
概 要 次のとおり

1 開会

2 挨拶・趣旨説明（中川町長）

近年、日本全体の少子高齢化に伴う人口減少が顕著となり、上市町の人口も2万人を割った。今後の町の児童数についても減少が見込まれ、特に、ある小学校では、令和8年度に全校児童数が35人（1学級平均で6人程度）になることが見込まれている。子供達の教育環境として、本当にこうした状況で良いのか、疑問が生じたところである。誰かが、この小学校のあり方の問題について考える必要があると判断して、問題提起させていただいた。

この問題については、3つの立場を考慮する必要がある。教える側の教員の視点による学級の適正規模、保護者の思い、そして地域の皆さんの思いである。これらの意見を集約して、結論を出す必要がある。

町民の皆さんに、これからの小学校のあり方について、一緒に考えていただきたい。本日は、そのための問題提起の場であり、これに係る判断材料をお示ししたいと考えている。

私の個人的な意見として、段階的に、小学校の統合もやむなしと考えている。ただし、このとおりになるということではなく、これはあくまで議論をするために、私の個人の意見としてお示ししたものである。今後、地域や職場等においても、小学校はどうあるべきかということを考えていただきたい。

3 説明「小学校の適正規模等への見解」

藤縄教育長より説明資料及びスライドに基づき説明

4 質疑応答（以下、発言順）

◎発言者（宮川校区）

学校の統廃合を行う場合、既存の校舎をそのまま使用するのか、あるいは新築するのか。

（要望として）身体に支障がある子供が通う小学校において、エレベーターや障害児用トイレの設置をお願いしたい。

中川町長

学校の新築については、既存の校舎について耐震改修、大規模改修等多額の投資を行っていることから、これを今の段階で取り壊す（その上で新築する）ことは、町民の理解が得られないものとする。

私見では、小規模校同士が統合しても意味はないと考える。上市中央小学校と、複式学級の発生が見込まれる学校とが統合する形がよいのではないかと。

藤縄教育長

エレベーター等施設の整備には経費がかかる。また、エレベーターについては、既存の学校に外付けで整備するのは難しい。当該児童の状況をお聞きし、学びの場としての望ましいあり方について協議させていただきたい。

◎発言者（宮川校区）

町における子育て施策のあり方はどうあるべきか。学校だけでなく、地域を見据えた幅広い視点による検討が必要ではないか。町長、教育関係者と町民とで、今後議論していく必要があり、また、そうした議論できる場が必要と考える。（以上、意見として）

◎発言者（白萩西部校区）

先行して学校統廃合を行った他団体の状況をお聞きしたい。

（意見として）小規模校のデメリットは、教員のやり方次第で解消できると考えるが、大規模校のデメリットとなると解消は難しいのではないかと。小規模校だからできることもあると思うし、ある程度余裕のある学校規模も必要ではないか。財政負担の問題の兼ね合いもあるかと思うが。

藤縄教育長

昨年の秋に、黒部市、魚津市、立山町を訪ねて、話を聞いてきた。黒部市も魚津市も、統合直後ということもあって、統合自体の効果についてはあまり聞けなかった。

黒部市の例では、中学校4つを2つに統合し、既存の中学校の敷地内に新しい学校がつくられたが、子供達にとっては「ホーム」ではなく「アウェー」に感じられたようである。例えば、行事を実施した際に、「アウェー」に感じた生徒の不参加が目立ったそうである。また、不登校の生徒も増えてきており、学校の規模が大きくなって目が行き届かない傾向にあるようである。

また、魚津市の例では、統合をしたものの、数年先にクラス替えができなくなる（単一のクラスとなる）ということが見込まれている。また、氷見市の例では、複式解消のために統合したにも関わらず、複式学級の発生が目前

に迫っているとのことである。

このほか、(富山市)水橋地区においては、上条小学校と三郷小学校との統合が予定されているが、今後、水橋地区では(地域内の小中学校を統合した)義務教育学校の設置が見込まれており、これが実現した場合、同校の児童は6年間で2度学校が変わってしまうという事態が生じる。

中川町長

(今回の議論において、)財政的な問題にはあえて触れていない。

国(総務省)からは、人口減少を踏まえ、公共施設等の見直しを求められている。これを踏まえ、町においても、公共施設等総合管理計画を策定し、そのなかで、今後の公共施設等に係る維持管理経費を25%程度削減する必要があることを謳っている。(町の公共施設等全体における取組として)保育所等については、白萩西部及び柿沢以外の保育所をすべて民営化した。

学校のあり方に関して言うと、学校間格差はあってはならないと考えている。一例として、ある学校に存在する教材が別の学校にはないということは絶対にあってはならない(数量の差はあってもよいが)。子供達のためには、平等・対等な教育を受ける環境が必要である。維持管理費を抑えるための統合という思いはない。今日提示した見解等をたたき台として、小学校のあり方としてどのような環境がよいか、各地域に出向いて御意見を伺いたい。この問題については、いつかは誰かが判断しなければならない。

◎発言者(上市中央校区)

適正な児童数を1クラス15~25人としているが、どのような基準で定めているのか。児童数が少ない方が学力向上に効果があると考えますが、15人未満は適正ではないのか。

藤縄教育長

児童数については、公教育の場合は、ある程度の規模の人数で行うのが望ましい。

2つの学年で児童数が合わせて15人以下になると複式学級となることから、1つの学年で児童数が10人を割ることが続くと、複式学級となる可能性が高くなる。

一方、児童数が多い場合では、一例として、宮川小学校ではコロナ禍を踏まえて一部の児童が未だ普通教室以外の部屋で授業を受けるという事態が生じている。ある程度、余裕をもった教育環境も必要であり、これらを踏まえて1クラス15~25人を予定している。

◎発言者（白萩西部校区）

将来的には、（学校の統合は）やむを得ないと思う。ただ、それぞれの地域においては、それぞれの政治、文化、経済があり、学校はそれらの中心である。学校がなくなることによって、それらが衰退しないよう望む。

統合をした場合、残された旧校舎はどのように扱うのか。例えば、地域の各種団体に貸し付けて、利活用する方策もあるのではないか。

今年の大雪では、地域においても、見守り隊や保護者が通学路の除雪をおこなった。不審者対策等地域における見守り活動も必要であり、子供達が安全に登校できるよう、ご検討いただきたい。

中川町長

（統合した場合の）旧校舎については、災害時の避難場所に指定していることから、建物をなくすことはできない。地域で活用していただければと考える。また、地元の保育所を、旧校舎へ統合することも考えられる。児童の登校については、スクールバスの活用など安全な登校手段の確保を図りたい。

藤縄教育長

白萩西部小学校は、今春の卒業生が4学年のときから、上級の5・6学年の児童がいない状態が2年間続いたが、その間、地域の皆様に学校行事等への協力をお願いした。地域全体で学校を支援していただき、感謝申し上げます。

小学校のあり方について、（統合を見据えた御意見ではあったが）決して統合という方向に決まったわけではない。地域の皆様がどのように考えるか、皆で議論していただきたい。

5 閉会（挨拶：中川町長）

以上